

研推だより

「主体的・対話的に学び深める児童の育成 ～ペア交流で質問する活動を通して～」

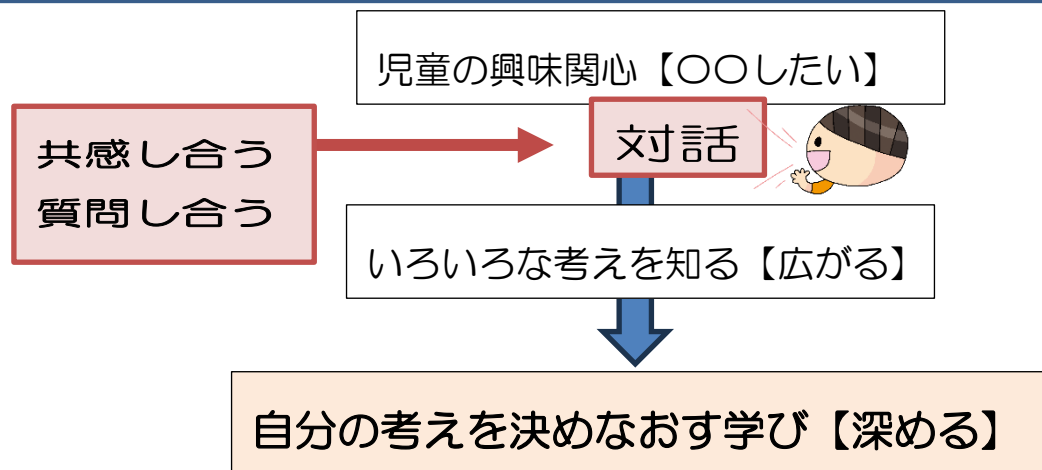


1 研推が考える「主体的な学び・対話的な学び・学び深める」とは？

学び深める

文部科学省は深い学びを「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」と定義している。よって研推では、「学び深める」ことを次のように捉え、重点項目としたいと考える。

友達と対話することを通して、自分の考えになかった新しい考えを取り入れ、自分の考えの根拠を増やしたり、よりよい考えを取り入れて新しい考えをもったりする。（広がり→深まり）



主体的な学び

文部科学省は主体的な学びについて「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」と定義している。このことをふまえ研推では、主体的に学ぶ姿を次のように捉える。

- ①学ぶことに興味や関心をもつ児童
- ②見通しをもつ児童（自分で組み立てて学習する。）
- ③自分で目的意識や課題意識をもつ児童
- ④自分でめあてをたてる児童
- ⑤粘り強く取り組む児童

対話的な学び

文部科学省は対話的な学びについて「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」ことと定義している。よって研推では、対話的に学ぶ児童を次のようにとらえる。

- ①子供同士の対話・協働を通じ、自己の考えを広げ深める。
- ②教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める。
- ③先哲の考え方を手掛かりに考える。

会話 $\neq$ 対話

以上のように考える。そこで研究主題にせまる手だてとして、次の3つを、授業を見る視点として考えていきたい。

【視点①】 自分の考えと友達の考えを比較して、新しい考えを取り入れたり自分の考えをよりよくすることができていたか。(学び深める)

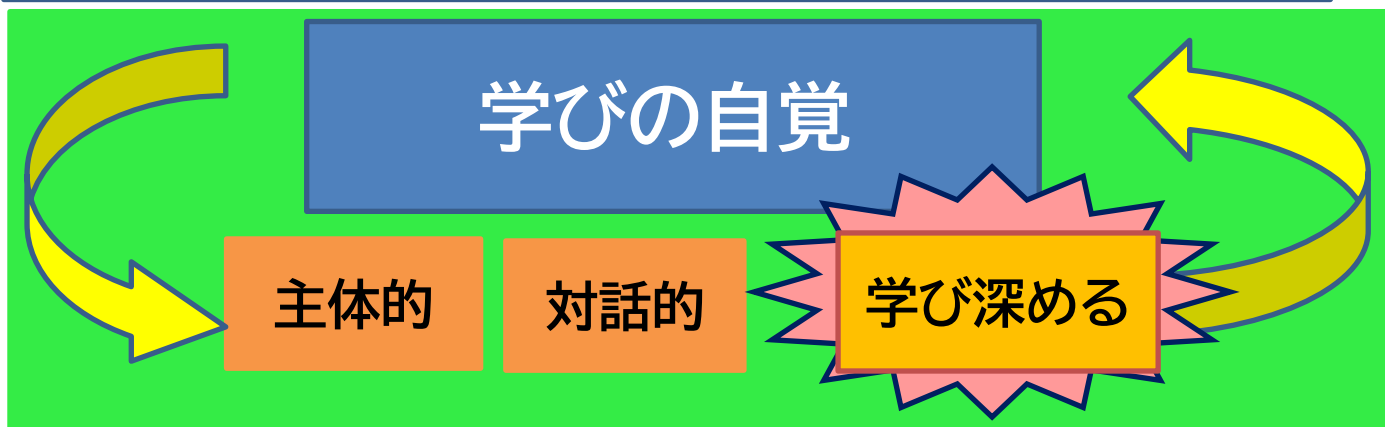
【視点②】 児童が自ら課題や目的意識をもつことができていたか。(主体的な学び)

【視点③】 質問することによって、児童が自らテーマに応じた興味関心を広げられていたか。(対話的な学び)

この3つの視点に共通することは、「**学びの自覚**」があってこそ成り立ち、さらにはこの学びの自覚は、何度も繰り返しながら深まっていくものだと考える。

研推が考える**学びの自覚**とは？

- ①授業を始める前と授業が終わった後で、自分がどんなことが分かって、どんなことが分からなかったのか自覚する。
- ②自分がどんなふうに変ったのかということを自覚する。その際に友達の発言や考えがどんなふうに関与しているかを理解する。



この**3つの視点**と**学びの自覚**を意識して、それぞれの分科会で考えられる具体的な手だてを考え、授業に組み込んだ授業を展開する。